JAPAN PI ｜ 証人特定・陳述書サービス

陳述書見本と読み方

次ページ以降は、当社の調査員が証人から聴取した内容を書面にまとめた陳述書の見本です。実際の陳述書は案件により数ページから十数ページになりますが、ここでは形式が分かるよう3ページに短縮しています。見本中の**オレンジの番号**が、下の解説に対応しています。

登場する人物・住所・電話番号・出来事はすべて架空です。

1 表題と陳述者名（各ページ上部）

どのページを抜き出しても、誰の陳述書か分かるようにします。英文表記を併記すると、海外の訴訟でもそのまま参照できます。

2 作成日・住所・氏名・連絡先

陳述者を特定する情報です。氏名にはローマ字表記を添えます。聴取の日時と場所も記載します。

3 段落番号

1項ごとに一つの事実を書きます。尋問や準備書面で「陳述書第8項」のように箇所を特定でき、反論も整理しやすくなります。

4 日時・場所・距離などの具体性

「いつ・どこで・どのくらいの距離から・どんな状況で」見たのかを書き、証言の信用性を判断できるようにします。

5 見たことと、分からないことの区別

見ていないこと、推測にすぎないことは「分かりません」と明記します。言い過ぎた陳述書は、反対尋問で崩れる原因になります。

6 聴取の経緯と任意性

誰がいつ聴取したか、話すかどうかは自由だと説明したことを記載します。強要や誘導がなかったことを示す記録になります。

7 各ページ下部の署名・日付とページ番号

陳述者が各ページを読んで確認した証として、ページごとに署名と日付を手書きしてもらいます。「1/3」のような通し番号と合わせて、ページの差し替えや抜き取りを防ぎます。

8 作成方法の確認

陳述者自身が書いたのか、聴取者がまとめたのかを明記し、全文を読んで確認したことを本人の言葉で記載します。

9 末尾の確認文言と署名欄

「以上のとおり相違ありません」の確認文言に続けて、陳述日、陳述者の住所・氏名を記載し、本人が自筆で署名します（記名押印の場合もあります）。英文の declaration・affidavit では、偽証の制裁を前提とした宣誓文言や公証人の認証欄が加わるなど、使用する手続によって末尾の形式が変わります。形式は着手前に代理人の先生と確認します。

本見本は書式の説明を目的としたもので、特定の手続における証拠としての要件を満たすことを保証するものではありません。株式会社Japan PI（探偵業届出事業者）／ https://www.japanpi.com/ja/

陳　述　書

Written Statement

2

作 成 日	2025年4月18日
住　　所	東京都目黒区見本町一丁目2番3号 サンプルハイツ101号室
氏　　名	見本 花子（Hanako Mihon）
電話番号	090-0000-0000
聴取日時	2025年4月10日 午後2時～午後3時40分
聴取場所	甲野一子様方 1階応接間

私は、以下のとおり陳述します。

3

1. 私は、2018年4月から、東京都内の甲野一子様（以下「奥様」といいます）のお宅で、通いのハウスキーパーとして働いています。勤務は月曜日から金曜日の午前9時から午後5時までで、主に掃除、洗濯、買い物を担当しています。

2. 甲野様のお宅には、私のほかに、ハウスキーパー2名と料理人1名が出入りしています。ハウスキーパーはそれぞれ担当の曜日と部屋が決まっており、私の担当は1階の居間・応接間と、2階の廊下・洗面所です。

3. 2階の奥にある和室（以下「奥の和室」といいます）は、奥様のご長女の甲野二美様（以下「お嬢様」といいます）がお使いになっているお部屋です。奥の和室の掃除は、毎週火曜日の午前中に、奥様かお嬢様が立ち会われるときだけ行うことになっていました。

4. 奥の和室の桐箪笥に、甲野家に代々伝わる金の装身具（以下「本件装身具」といいます）がしまわれていることは、2020年頃に奥様から伺って知っていました。ただし、私自身は、本件装身具を見たことも、箪笥を開けたこともありません。

5. 2025年3月3日から、お嬢様はご病気のため入院されました。お嬢様の入院中、奥の和室には鍵がかけられていませんでした。

6. お嬢様とお付き合いをされている乙山三郎様（以下「乙山様」といいます）は、お嬢様の入院前から、週に1、2回ほどお宅に来られていました。いつもは1階の応接間で奥様とお話をされ、2階に上がられるのを私が見たことは、それまでありませんでした。

SAMPLE

4

7. 2025年3月14日（金曜日）の午後3時頃、私は乾いた洗濯物を持って2階の廊下を歩いていました。そのとき、乙山様が奥の和室から廊下に出てこられるのを見ました。

8. 私と乙山様との距離は、5メートルほどでした。廊下は窓からの日差しで明るく、乙山様のお顔ははっきり見えました。乙山様は、紺色のジャケットを着て、茶色の革の手提げ鞄を持っていらっしゃいました。

5

9. 乙山様は私に気づくと、「二美さんに頼まれて、本を取りに来ました」とおっしゃいました。私は「そうですか」とだけお答えし、そのまま洗面所に向かいました。乙山様が奥の和室で何をされていたのかは、見ていないので分かりません。

10. その日の午後4時頃、私が1階に下りると、乙山様はすでにお帰りになっていました。何時にお帰りになったのかは、確認していません。

11. 3月14日のことは、そのときは特に気に留めておらず、誰にも話していませんでした。お嬢様が本を頼まれることもあるだろうと思ったからです。

12. 2025年3月28日の朝、奥様から、奥の和室の箪笥から本件装身具がなくなっているとお聞きしました。奥様は、ハウスキーパーと料理人の全員に、心当たりがないか尋ねていらっしゃいました。

13. そのとき、私は3月14日のことを奥様にお話ししませんでした。乙山様はお嬢様の大切な方ですので、私の見たことが誤解を招いてはいけないと思い、言い出せなかったのです。

6

14. 2025年4月10日、奥様の顧問弁護士の先生から依頼を受けたという株式会社Japan PIの調査員の方2名が、お宅の1階応接間で、私から話を聞きました。調査員の方からは、話すかどうかは私の自由であること、話した内容が裁判で使われる可能性があることの説明を受けました。

SAMPLE

15. 私は、このときに初めて、3月14日に見たことをお話ししました。

5

16. 私が3月14日以外に、乙山様が2階に上がられるのを見たことはありません。ただし、私は毎日2階にいるわけではありませんので、ほかの日に乙山様が2階に上がられたことがあったかどうかは分かりません。

17. 私の勤務日に、ほかのハウスキーパーや料理人が奥の和室に入るのを見たことはありません。

18. 私は、本件装身具がどこにあるのかを知りません。また、私が本件装身具を持ち出したことはありません。

8

19. 本陳述書は、私が調査員の方にお話しした内容を、調査員の方が書面にまとめたものです。私は全文を読み、内容に誤りがないことを確認したうえで、各ページに署名しました。

以上のとおり相違ありません。

9

陳述日	2025年4月18日
住所	東京都目黒区見本町一丁目2番3号 サンプルハイツ101号室
氏名	見本 花子（Hanako Mihon）
署名	見本

見本 SAMPLE